

高齢者大学文芸部 5月歌会

健やかに百合の芽伸びて老われもパワーもらはむ
朝な夕なに 河津 豊子
枝垂れ桃真白き花の咲き初めて不意に明るき四月
の背後 岡本 トシ
浮雲の寄りては離れ流れゆく四月の空の尽きなき
ドラマ 佐々木佐江子
うつむきて何を思ふか翁草春たのしめぬ夫とわた
くし 中津 ツユ
香き日の天長節は式のみにて紅白万十貫ふうれし
さ 岩木タエ子
「結衣ちゃん」と良き名もらひし曾孫を危ぶみ抱
けば眉のやさしさ 山下 菊代
城山の徳富蘆花の碑に添ふごとく妻の愛子の髪塚
はあり 氏岡 百枝
給ひたる小でまりの花供へつつふと頭つ里の大で
まりの木 梅野かをり
四月余を病みて帰りしペランダにゼラニウムの花
花紅く咲きをり 宮本サチ子
夫逝きて早八ヶ月の日は流れ孤独に慣れて庭の草
抜く 岩木 孝

万句の里俳句会 4月句会

青空を突き抜けしより初燕
うららかや嬰とあそびの片言葉
参道を少し拝借花筵
一年は昨日のごとし柿若葉
こゝちよき風の出できし夕桜
風攫ひ渦となりゆく花の片
先づ風に身をまかさるる落花かな
母あれば思ふ湯宿の夕桜
村人の総出や里の灌仏会
由布岳を包み余してゐる霞
篋に八重山吹の花明り
古刹へと続く山路や百千鳥
光本とよいち
小山 照子
田中 美智
吉井 綾子
北村 君子
丸山美代子
岩木 敬治
打出 貞
野中 公枝
限部 輝子
田島 房子
加藤 妙子

肥後狂句桜会 4月例会

生ビール仕事の疲れ吹き飛ばし
当てならんローテーションに入れられん
知らんふり余分にお釣りくれらした
板に付き家計も嫁に任さるる
当てならんあした戻すて言わしたが
板に付き手上げて渡るランドセル
生ビールストレス退治しよります
小川 繁美
太田 雄三
光堀 善教
田中 孝幸
田尻 浩風
狩野 本六
水谷 ミネ

泗水短歌会 4月詠草

男らしさちゃんと引き際知つとらす窪田 明德
当てならん梅雨時ア傘持つて出る 東 栄次
男らしき満額くれてやる離婚 高倉 新米
当てならん三億円も出した打者 北村 竹刀
生ビール何んとも言えん風呂上がり 須藤 新生
花嵐夕そよぎて冷たかり咲き始めたる桜いとおし
内田つね代
交差路の亀裂に咲ける黄のタンポポ春の到来光り
て告ぐる 高藤タツノ
八百本の桜名所の公園に子連れ犬連れ日すがら多
し 中山 定子
誕生日はエープリルフルと知りつつも担がれて
みたし遺影の夫よ 福原美智子
彼岸会のおほぎを亡夫に供えつつ桜ほころび初め
しも伝う 古田のぶ子
先祖祭りの亡夫の墓前に娘五人・孫・ひ孫十四人
幸せ謝せり 藤本のり子
春の陽のあまねく照らす門の辺にころる遊ぶ幼
を見守る 増田久美子
ほんのりと桜の花香匂いくる菊池神社の散策楽し
病む母に春を見せたく菜の花にひと声掛けて一茎
手折る 吉安 永子

せせらぎ俳句会 4月例会

庭瀑に浮く花屑のさくら色 坂本まつえ
妻騙すことも叶はず四月馬鹿 内村 泊虹
春鴟に所定の位置のありにけり 藤本 邦治
葉桜の枝影揺るる露天風呂 服部 静子
散る花に己が齢のありにけり 村山 数恵
春雷に対話途切れし五人部屋 藤本アツ子
靴びかびかネクタイきりり入社式 寺本 和子
朝霞阿蘇の寝釈迦は未だ覚めず 五丁 義昭
三日とは続かぬ日和菜種梅雨 吉岡 民子
筍掘りもう少しかな根つ子まで
(中一) 渡辺一史

ふと見ると野苺の花踏みそうに
(中一) 渡辺大寿

肥後狂句水笑会 4月例会

里帰りそのままずっと居らすげな 水 光
よか気分 媽が駆け落ちしてくれた 好 茶
里帰り 日本語までも忘れとる 三 水
さでこけて 誰も居らんと泣きもせん 美 由
よか気分 うとうとさせるお縁側 五 女
よか気分 差しつ差されつ二人きり 美 樹

待ちきれんかかの買物付きあえん
よか気分今年も花見無事出来た
まごついて 税務署さんの来るちわす
乗 弘
江 彩
英 坊

七城短歌会 4月詠草

寒椿ほぐるる音は聞こえねど今朝は幾つも落花し
ており 池田 禮子
ちらほらと桜舞い散る午後にくく友の訃報は寝耳
に水なり 緒方 寛子
庭先の桜花の下で背伸びする夫看取りたりし今日
があるかも 吉岡 充子
菜の花に胡蝶飛び交い春は来ぬ我八十五才なお励
まむか 松岡ミチエ
上弦の月は童話へ誘われる下界この世は偽メール
騒動 高木 精
自衛隊に明日が入隊の孫の声聞きたさ一杯プツ
シュボタン押す 水田紗陽子
高収入計画せし畑病ゆえ鎌・鎌放りて雑草蔓延る
村上 幾雄
立ち止まり背筋を伸ばすわが横を大手大股で友は
過ぎ行く 池田カツ子
送迎のバスに揺られて施設への坂道の新緑に見和
ぐも 岩下ミツエ

旭志文芸俳句会 4月詠草

持て成しは囀りの中逢つむ 芹川のり子
春隣海から山へ嫁が来る 芹川 蓉子
桃桜我鼓舞すごとく咲き初めし 出田みどり
早々と亡夫一周忌の彼岸来る 東 芳子
ひな壇のしまいがたしよ日脚のふ 岩根サチ子
銀翼の影すべり行く春うらら 水谷 ミネ
鳩の群終日浮きて長閑なり 中尾ヨシコ
ふきのとう春の息吹にほんのりと 郷 ミヤ子
ラベンダの線香かほり仏間春 中山 栄子
桜草早やミツバチの羽音立て 岩根 良子

